

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600275		
法人名	有限会社 森		
事業所名	グループホーム いこいの森		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字戸ヶ里1811		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年2月28日	外部評価確定日	平成24年5月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○建物1階部分には、協力医療機関がある利点を生かし医療と連携して健康管理に努め、看取り介護を行っている。建物3階には、併設型認知症対応型デイサービスと共用型認知症デイサービス(3名)があり、利用者同士の交流も盛んである。</p> <p>○運営推進会議には、利用者本人・家族・地域住民多数の参加があり運営にさいし、建設的な意見と共に実際協力も得ている。家族会もあり、家族会主催の行事も開催されている。開所当初からの定期的なボランティア等との交流も盛んで年に数回大きな行事では地域住民も招待し、常に開かれたGH運営を目指している。</p> <p>○壁面飾りに力を入れ、季節ごとに飾りつけをして介護度の低下により外出困難になってきた利用者にも室内で楽しめるよう努力している。</p> <p>全職員を年1回以上外部研修に参加させ、介護知識や技術の向上に努めている。内部研修にも力をいれ、開所以来毎月職員研修会も実施している。</p> <p>○開所当初より代表者(管理者)は介護職員の不安やストレスを軽減するため、人員配置(人数)に配慮している。</p> <p>○町と協力し、認知症サポーター養成講座(6名)を開催し、地域での啓発活動に力を入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>1階にある母体の医療機関は、地域の病院として住民に親しまれ、施設は2階に位置している。医療との連携ができ、緊急時の対応や看取り介護においても大きな力となっている。また地域との日頃の関係が密に出来ており、2ヶ月毎に行われている運営推進会議を通し、地区の住民の参加、消防団などの協力で、夜間の防災訓練も実現出来ている。管理者が利用者と家族との関わりを大切に考え、ホーム内の数々の行事には家族や地域住民の積極的な参加があり、利用者の笑顔が絶えないホームである。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様一人ひとりの個性やこれまでの生活を大切にしながら支援していくことを理念とし、職員や入居者、家族様、来訪者など誰もが常に目に入る場所に理念を掲示し、その共有と実践に努めている。	職員と共に開設時に作成された理念は、誰にでも直ぐ目に入る共有ホールに大きく掲示されている。入居者のあるがままを受け入れ、地域での暮らしを支援することを大切にしており、管理者を始め、職員全員が共有し、実践につなげるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ収集所の掃除や地域の祭りなど、各種の活動や行事に積極的に参加している。また、運営推進会議や防災訓練を始め、事業所での各種の行事や活動においても、地域住民の参加が多い。	地域住民の運営推進会議への参加で、地区行事の日程の連絡も受けている。事業所で行う各種の行事にも、地域住民の来訪も多く、交流できている。また認知症サポーターの講座を行い交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	要請があれば年に数回、職員6名が認知症サポーター養成講座を行い、地域の老人会や民生委員など対象者に応じた講座内容を工夫し、認知症への理解や支援を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、サービスの実施状況や利用者様の生活状況などを資料、パワーポイント等を用い報告している。出席者(区長、民生委員、消防団、駐在所、老人会会長、役場担当者、町会議員、県会議員、利用者家族様等)からの意見も多くいただき、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に一回行われ、家族代表や地域住民や市の担当者などが参加されている。色々な意見や報告がなされ、運営推進会議の目的に沿って充実した話し合いが行われている。議事録もきちんと整備されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への役場担当者の参加や電話での連絡、地域包括支援センターとの連携等により日頃から協力関係を築いている。	役場とは日頃より気軽に相談が出来る関係にある。また、サポーター養成講座等の依頼も度々あり、連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内数ヶ所の職員が見やすい場所に「身体拘束のないケアの実践」という具体的な禁止行為を掲示し、実践に努めている。また、職員研修会においても勉強会を行っている。	事業所では、身体拘束のないケアの実践を掲げ、すべての職員が問題意識を共有するため勉強会を行い、実践につなげている。施設内は施錠することもなく、スタッフのゆとりある見守りで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員研修会において、利用者様一人ひとりのケアの状況や方法について検討し、管理者も介護現場に入りながら職員の指導を行うなど、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修会において、権利擁護に関する勉強会の機会を設けている。現在の利用者様での活用はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居やサービス利用に際しては、数回の面談や説明を行い、また、改定の際には、全利用者様の家族様に対し説明会を開いて説明を行っている。解約の場合も、納得いただけるまで話し合いを行い、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月ごとの運営推進会議への家族様の参加や年2回の家族会を始め、各種の行事や普段の面会時など、管理者や職員が常に家族様の意見や要望を伺い、職員全員がそれを共有し日頃のケアや運営に反映させている。	運営推進会議や面会時、また、行事への家族の参加時などに、何でも言ってもらえるよう、聞き出す努力をしている。また、意見箱が玄関に設置されており、いつでも意見を出せるようになっている。出された意見は職員で話し合い、支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月の職員研修会に出席し職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。また、普段の介護にも従事しており、日頃から職員の気持ちや意見を把握している。	管理者も日々の業務に従事しており、職員は違和感なく楽しい雰囲気で行っている。月1回の会議は管理者も参加し、出された意見や提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々の職員の実績や勤務状況だけでなく、心身の状況や家庭の事情などにも気を配り、各自が意欲を持って働けるような職場環境・条件の整備に努めている。介護職員処遇改善交付金も交付されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年年間計画を立て、全職員を外部研修に参加させている。参加する研修は、職員の意向と力量に合わせて決定している。また、職員が自主的に参加を希望する場合も参加させ、資格取得のための支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、白石町グループホーム連携協議会に定期的に参加し交流や情報交換を行っている。また、昨年11月には、管理者が発起人となり、第1回グループホーム交流会を開催し、利用者様や家族様も参加して他事業所との交流を図った。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居やサービス利用の開始にあたっては、自宅訪問や施設の見学に来ていただき、管理者やケアマネなどとの面談で、困りごと、不安なこと、要望等を伺い、本人様が安心できるような関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様同様、家族様の困りごと、不安なこと、要望等を十分に伺い、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の気持ちや希望を最優先に考えながら、家族様とも十分に話し合い、その時点でまず必要な支援やサービスを提供できるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様ができる作業を見出し、会話をしながら一緒に行っている。常に人生の先輩としての敬意を忘れず、言葉遣いにも気を付けながら接している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、家族と施設が協力して本人様を支えていくことを理解していただき、入居後は、面会や行事等への参加の際に、最近の本人様の状況を伝えたり、毎月のお便りで状況を伝えるなど、家族様にも常に本人様の状態を把握していただき、絆を大切に共に支えていくことの重要性を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や正月の自宅への外泊や外出を始め、自宅での行事等にはできるだけ参加の機会を作っていただけるように家族様にお願いしている。外泊や外出が困難な方には、家族様や親戚、知人の方々になるべく面会に来ていただくように働きかけている。	お盆やお正月は利用者にとって家族と関わりが出来る特別な日と捉え、できるだけ家族に外出や外泊を依頼している。また、知人や親族に面会などの協力を依頼し、利用者が馴染みの方と安心して過ごせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを考慮し、一人ひとりが孤立せず会話などができるように、食事の席やリビングで過ごす場所を工夫している。また、必要に応じて職員が間に入ったり、説明をするなどして介護度の高い方でも会話やレク活動が楽しめるように気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度契約終了の方はないが、これまで入院等により契約が終了された方の中には、現在も家族様がボランティアとしてホームを訪問される方もある。契約終了された方も、必要に応じて相談や支援を行う体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のケアや関わり、会話などの中で利用者様の思いや希望、意向などを把握できるように努めている。意思の伝達が困難な方の場合には、言動や表情などから推察し、毎月のカンファレンスで情報を共有しながら利用者様本位のケアができるように努めている。	ケアプランに基づいた家族や本人が希望する支援と共に、日々の関わりの中で、会話や表情から得られる情報も大切に、利用者様本位のケアが出来るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の本人様や家族様からの聞き取りだけでなく、入居後の普段の会話や昔話などから一人ひとりの生活歴や暮らし方、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りをはじめ、業務日誌、個人記録、バイタルチェック表などにより、一人ひとりの一日の状態把握に努めている。また、毎月のケアカンファレンスにおいて担当職員が一ヶ月の様子を報告し、全職員が情報の共有と現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにおいて管理者をはじめ全職員で検討し、定期的に(3ヶ月、6ヶ月)評価を行っている。また、本人様や家族様の生活に対する意向や希望をその都度伺い、担当職員とケアマネが一緒にアセスメントを行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者ごとの担当職員を決めているが、より利用者本位で現状に即したものとなるよう、毎月行われるカンファレンスで情報の共有を図り、また家族の方には面会時など生活に対する意向を聞き取り、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録についての勉強会を行い、日々の個人記録を記入するとともに、申し送り等により全職員が情報を共有できるようにしている。それをもとにケアを実践し、定期または状態変化時の介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事、入浴、通院等は個々の体調や状態に合わせて柔軟に対応している。また、併設のデイサービス、ボランティア、地域住民との交流などを頻繁に行い、共用型デイサービスやショートステイなど本人様や家族様の状況、ニーズに対応するサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、老人会、地区消防団、駐在所、ボランティアや地域住民の方々などには運営推進会議をはじめ多くの行事や防災訓練等の活動に参加をいただき、利用者様一人ひとりが安全に安心して暮らせるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の希望時や必要時は、いつでも母体の医療機関を受診でき、専門の医療機関受診が必要な場合には主治医からの紹介により受診するなど適切な医療が受けられるように支援している。必要時には、家族様の同意を得て看護師等が受診に同席している。	入居者は緊急時はもとより、日々の健康管理を含め母体の医療機関の受診となっている。専門医の受診は、家族が行けないときは施設内の看護師が同行するなどして支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員(介護職員兼務)を配置し、日常のケアでの情報や気づきをすぐに伝え、一人ひとりの利用者様が適切な受診や看護受けられるように体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、職員が早期に病院に出向き、医療ソーシャルワーカー等と面談を行い情報交換や退院に向けての話し合いを行っている。退院が困難な場合にも、家族様に今後の意向を伺い医療機関関係者との連絡調整等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、家族様に対し看取りについての説明を行い、家族様の意向を文書で取っている。看取りを希望される場合は、家族様、医師、看護師、管理者、ケアマネ等が段階に応じて話し合いを行いながら、関係者が協力して看取り支援を行っている。	入居時に看取りに対する説明を家族に行い、意向を文書で確認している。看取りに対しては、家族、医師、看護師、管理者、ケアマネージャーなどで段階的に話し合いながら、看取り支援を行っている。家族が宿泊することも可能で、最後まで家族との関わりが出来るよう支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年職員数名ずつが応急手当等の外部研修を受け、受講後は全職員に対し報告を行っている。また、救急・応急手当マニュアルを作成し急変時や事故発生時に備えている。昨年6月には、母体の医療機関と合同で、「救急医療の現状と心肺蘇生」についての研修会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施し、夜間を想定した訓練では全職員が参加している。訓練には利用者、地区消防団、地域住民、ボランティアの方々にも参加をいただき、地域との協力体制を築いている。訓練後は反省会を行い、全職員が避難方法等を確認している。	年2回、消防団、地域住民、ボランティアの協力を得て、夜間想定を含め、防災訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
toos					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩として尊重し、声かけや言葉遣い、対応方法に注意している。プライバシーや接遇マナーについての勉強会も行っている。	利用者の人格や誇りを大切にしながら、親しみのある言葉で話しかけるよう心がけている。接遇やプライバシーの勉強会や研修会にも参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人様が自分の思いや希望を表したり、自己決定ができるように声かけや対応に気をつけている。自己表出が困難な場合は、表情や行動から推察するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の体調や生活のリズム、ペースに合わせて過ごしていただけるように努めている。基本の日課はあるが、本人様の希望やペースを優先し、参加を促す場合も本人様の体調や状態を考慮しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪を希望される場合はいつでも訪問美容を依頼することができる。衣類は季節ごとの入れ替えを家族様にお願いし、着替えを行う場合は、できる方には本人様に選んでいただくようにしている。整髪も本人様の希望に沿って行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度の重度化により、一緒に調理を行うことは困難になっているが、献立の希望を聞いて取り入れたり、野菜の皮むきやゴマすり、片付けなどを手伝ってもらっている。食事は利用者様と職員が会話をしながら一緒に食べている。	利用者の希望の献立を聞き、野菜の皮むき等できる範囲で一緒に行っている。季節に合った食材で、味付けは美味しく、目と舌で楽しめるよう支援されている。スタッフが利用者をサポートしながら一緒に、食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、毎日職員が栄養バランスを考え、一人ひとりの状態に合った形態や量を提供している。摂取量も毎回記録し、摂取量が少ない場合や体重減少が著しい場合は医療機関に相談している。水分摂取も、食事以外におやつ時、入浴後、就寝前などに促し確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアの声かけや見守り、介助などを行い、清潔保持に努めている。食事の摂取状況にも注意し、必要時には家族様と相談し、歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日排泄チェック表を記入し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。自ら排泄の訴えない方には、時間を見て声かけや誘導、介助を行っている。	毎日の排泄チェック表で利用者の排泄パターンの把握がほぼ出来ており、オムツを使用されてる方でも日中は時間毎の排泄誘導、介助がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事内容(野菜を多く取り入れたり、汁物をつけるなど)、毎日の体操に腹部マッサージを取り入れるなどにより便秘の予防に取り組んでいるが、便秘が続く場合には主治医に相談し、下剤服用の指示が出る場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の希望や体調などに合わせて、いつでも入浴できるようにしている。	毎日、入浴ができるようになっており、清潔の保持に努めている。また、入居者の要望に合わせ、夜間の入浴を試みるなど、気持ちよく入っていただける支援を心がけている。入浴を嫌がられる利用者には、スタッフの関わりを多くし、気持ちに合わせ、声かけしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共用のリビングでは、一人ひとりが好きな時に好きな場所で休息できるような環境を作っている。夜間寝付けない方には、リビングで職員と一緒に過ごしていただいたり、必要時には添い寝を行ったりして、安心して眠れるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも確認できるように服薬ファイルに綴り、理解している。一人ひとりの状態に合わせて服薬の見守りや介助を行い、症状の変化の確認を行っている。必要時には主治医に相談し、変更や臨時薬が出た場合などは、申し送りや業務日誌、連絡帳で伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好きなことを把握し、日々の生活の中に取り入れている。本年度は、月1回先生を招いて生け花活動を行い、4名の方が熱心に取り組まれている。また、第1回文化祭を行い、利用者様の作品(生け花、習字、手芸等)を展示し、家族様や地域の方々に見学していただいた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は年々困難になっているが、本人様や家族様の意向を伺いながら、少しでも季節を感じたり気分転換できるように外出支援している。また、外出できない分、施設内での行事や活動を工夫したり、壁面飾りなどの展示物に力を入れ楽しんでいただいている。	利用者の体調に合わせ、季節感が感じられるよう家族の協力を得ながら、ドライブなどの外出支援を行っている。外出が少ない時は、施設内で時節に沿った行事活動を行い、家族や地域の老人会などを招待し一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	介護度の重度化に伴い、現在、現金を所持し使用される方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけた取り次ぎできるように、施設内2ヶ所に設置しているが、現在使用できる方はいない。また、年賀状や手紙が届いたことを伝えているが、返事は書くことは困難である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて共用スペースの模様替えを行ったり、季節や月ごとに壁面や畳の間などの施設内の飾り付けを行い、生活感や季節感を大切に、居心地よく過ごせるように工夫している。	共用のホールは明るく、ゆったりとくつろげるソファや、個別に過ごせる空間がある。共用空間の壁面を利用し、家族や地域の人手作りされたお雛様飾りがリビングのあちこちに飾られている。天井からも、手作りの飾りがあり、季節感あふれるホールとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席、ソファを配置し、日中は一人ひとりが好きな場所で、思い思いに過ごされている。畳の間には、生け花や季節の飾り付けを行い、好きな時に見学されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には本人様や家族様に居室を見ていただき、自宅で使用されていたなじみの鏡台やタンスなどを置かれている。また、本や写真、人形等を置き、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は個々の状態や希望に応じてベットを配置している。馴染みの三面鏡や筆筒を持参され、本人が使いやすいように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりやトイレの表示、居室の名札など、わかりやすく安全に生活できるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない